松東（まつひがし）遺跡　発掘調査通信　VOL. 03

浜松市　文化財課　2012.12.20

第２工区（北東部分）の調査が終了しました。

１０月末より実施していた松東遺跡第２工区（北東部分）の発掘調査が１２月中旬に終了しました。

第１工区のように銅鐸は発見されませんでしたが、第１工区から連続する弥生時代後期の溝が確認されたほか、弥生土器を大量に廃棄した穴が２箇所で発見されるなど、弥生時代後期（今からおよそ１９００年前）の集落がさらに東側へ広がっていることを確認することができました。

第２工区　全景（東から）

また、わずかですが奈良時代や平安時代、鎌倉時代の土器も出土しました。

１１月２１日には天龍川町自治会役員の皆様に現地視察をしていただき、調査の状況をご覧いただくとともに、調査の方法や意義について、ご説明させていただきました。

土器集積遺構
弥生時代後期の土器が大量に廃棄されていました

多くの弥生土器が出土した土坑（穴）

作業風景

主な出土遺物

弥生土器について

弥生時代後期における西遠地方の土器
左から壺、高坏、甕　（参考：伊場遺跡出土品）

松東遺跡の主要な時期である弥生時代後期の土器は、壺（つぼ）・高坏（たかつき）・甕（かめ）の大きく３つに分けられます。壺は水などをためておくものです。高坏は台のついた椀・皿状のもので、食べ物を置くのに使われますが、まれに調理用に転用されて火にくべられたものもみられます。甕は低い台がついており、火にくべて米など食べ物を煮炊きするのに使われます。

このうち壺と高坏は、時期や地域によって形や文様の特徴が大きく変わります。この特徴を捉えることにより、いつ頃、どの辺りで作られた土器であるのかが、おおよそわかります。

（左）天竜川以東から持ち込まれた土器
（右）天竜川以東に特徴的な文様（縄文）のある土器
（参考：伊場遺跡出土品）

弥生時代後期の遠江においては、天竜川を境にして東と西で土器の特徴が大きく異なっています。西遠地方には、三河地方の影響を受けた「山中式」「欠山式」と呼ばれる櫛描文を多用した土器が分布しており、中東遠地方には、「菊川式」と呼ばれる縄文や刺突文を多用した土器が多くみられ、壺・高坏の形にも大きな違いがみられます。

松東遺跡は天竜川に近いため、天竜川以東の形や文様などを取り入れた土器がみられたり、土器そのものが持ち込まれていたりします。こうしたことから、松東遺跡に住んでいた人々と天竜川以東の人々との交流がうかがえます。

西遠地方に特徴的な文様（櫛描文）をもつ壺（今回の調査で出土）

天竜川以東から持込まれた縄文のある壺の破片（今回の調査で出土）

今後の予定

1月中旬～3月下旬には南部(第３工区)の調査を予定しています。第３工区をもって、今年度の松東遺跡の発掘調査は終了します。引き続きご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

みなさまへのお願い

※現場は危険な箇所がありますので、申し訳ありませんが無断で調査区内に立入らないようお願いします。なお、発掘調査に関するご意見・ご要望などございましたら、下記連絡先までお願いします。

浜松市役所　文化財課　　TEL（053）457－2466